

道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.29 秋号



巻頭インタビュー

「拾う人は捨てない」
市民と行政が同じ目線で
月形祐二（糸島市長）

みちづくし in 福岡 2015

「ゆつら〜っと」時流れ 水流るるまちへ おいでめせ

道守九州会議交流会

新しい「公」―道守活動
〜輪を広げ つながろう!!〜

道守・道の駅・風景街道の連携に取組もう
〜人と道と風景が手を組んで〜

道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、新しい道に一歩踏み出そう。



風景街道～ちょっとよりみち唐津街道むなかた

CONTENTS

- | | |
|--|--|
| 01 巻頭インタビュー
「拾う人は捨てない」
市民と行政が同じ目線で
月形祐二（糸島市長） | 08 わたしの好きな道
有明海沿岸 四季の彩り、干拓の歴史
～佐賀県白石町の国道444号線～ |
| 02 みちづくし in 福岡 2015
「ゆつら～っと」時流れ 水流るまちへ おいでめせ | 09 私たちの道守活動 |
| 04 道守九州会議交流会
「新しい公」—道守活動 ～輪を広げ つながろう!!～ | 12 『薩摩よりみち風景街道』 |
| 05 道守・道の駅・風景街道の連携に取組もう
～人と道と風景が手を組んで～ | 14 海外道事情 中国
留守洋平 |
| 06 道守、道の駅、風景街道の連携報告 | 15 道守人物伝・道守たちのトピックス・編集後記 |
| 07 各県道守会議からのメッセージ | |

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭 インタビュー

YUJI TSUKIGATA 月形祐二

（糸島市長）

九州道守会議が発足して11年、この秋、福岡（柳川）で「みちづくし大会」が開かれます。糸島地域でも道路清掃や花壇作り、子供たちへの啓発など、道守活動が活発ですね。

糸島地域では、呼びかけ人酒井忠彬さんをはじめ「ごみゼロ青春探検隊いとしま」の皆さんが、美化清掃活動を20年間毎日続けられていて、本当に頭が下がります。同様に自分たちで地域の道を守って行こうという機運も高まっています。また、道路ふれあい月間の8月には毎年、伊都の春、マックスバリュ、羅漢の皆さんらと合同で道路美化活動を実施していただいています。

皆さんの活動によって、福岡都市圏などから糸島市を訪れる年間

53.3万人の方たちを気持ち良くお迎えすることができています。

糸島市は、新興住宅地も多く、新たに市民となられた人が増えているようですが、市民参加型のまちづくりについて市長の考えはいかがですか。

糸島市の人口は10万人です。糸島市では、市内162すべての行政区（自治会）において、市民協働の一環として春と秋の2回道路の側溝清掃や除草作業などの環境美化に取り組んでいただいています。

糸島市では、20の環境ボランティア団体が登録されています。環境への意識は高齢者の方も多く関わっていただいています。例えばゴミについて言えば、皆さんが意識を持って

ゴミの無い環境を作っていくと、捨てる人にとっては罪悪感が生じると思いますが、『拾う人は捨てない、捨てる人は拾わない』との酒井さんの言葉は真実だと思っています。これらの意識を次の世代にも繋いでいくことが大切で、我々行政も一緒にやっていかなければ、と思います。

また、人と人と

の繋がりがしつかりしたコミュニティが自分達の地域を守っていく、それも行政と一緒にあって、同じ気持ちで守っていくというようなまちづくりをしたいと思っています。

九州大学の移転によって、大学や若者との「協働」の地域づくりのチャンスが生まれましたが、具体的にどう進められていますか。

九州大学の移転は、今年10月でちょうど10年になります。九州大学と糸島市で年間100を超える連携事業や交流活動を実施しています。

山側の集落で川の水を利用した小水力発電の導入や津波ハザードマップの作成、九大学生が小学生の学習を応援する九大寺子屋の開催、本市の国際観光大使に九大の留学生に就任してもらうなど、九州大学の教職員や学生と、さまざまな取組みを進めています。

また、九大学生が糸島の活性化を目指した団体「iTOP」を自主的に設立し、全国から大学生を集めて、糸島の活性化プランを検討・発表する「地域活性化プランコンテスト」を毎年開催。留学生カフェのオープンなど、優秀プランの実現化にも取り組んでいます。

昨年度創設したチャレンジショップ事業は、空き家・空き店舗を活用して、九大学生の起業を応援するとともに、地域との交流や地域の活性化を目指すものです。現在、留学生に

よる外国語教室がオープンしています。

地域資源を活かす日本風景街道・玄界灘風景街道の進め方についての考えをお聞かせください。

糸島の魅力というのは何なのかを、きちんと、皆さんに理解いただく努力をしていかなければいけないと痛感しています。糸島市は、『魏志倭人伝』に登場する「伊都国」のゆかりの地で、美しい海岸線や脊振・雷山山系をはじめ豊かな自然に恵まれ、伊都菜彩や志摩の四季、福ふくの里など市内19の直売所には、豊富な農林水産物が揃っています。また、市内には120を越えるいろんな工房が散在をして、焼き物やクロスを作ったり、手芸や木工の皆さんもいらっ

しゃいます。皆さんが歴史も感じながら、素晴らしい自然や玄界灘の風景を味わっていただきたいと思います。玄界灘風景街道パートナーシップの団体のご意見を聞きながら地域資源を活かした活性化と観光振興が必要だと考えています。

市民と行政が協働する「新しい公」の考え方は、今後の地方創生のキー・ワードになると思われます。

歴史、自然、人と人との絆は、糸島市の象徴であり、大切な宝だと思っています。

私は市民が幸せで、豊かさが実感できる「元氣な糸島を豊かさ実感の

「拾う人は捨てない」 市民と行政が同じ目線で



糸島へ」と言っています。注目されている地域になっていること自身が元気の証明なのでしょう。

先人たちが残してくれた豊かな資源は、行政だけで守り育てることはできません。「市民と行政が同じ目標に向かって、ともに力を合わせ活動する協働のまちづくり」が重要になります。協働でいろいろなものを守り、育てていくという考え方に立ちながら、公共のものもきちんと守って、次の世代に引き継がれるということが大切だと思います。

10月下旬から牡蠣シーズンを迎え、11月8日には福岡マラソンを開催します。たくさんの方のお越しを美しい風景と「糸島市民協働のおもしろい心」でお待ちしています。

（インタビュー：道守ふくおか会議世話人、はかた夢松原の会 理事長 磯谷慶子）

プロフィール

昭和33年6月28日生。西南学院大学法学部卒業。株式会社モリタ、福岡県議会議員を経て、平成26年2月糸島市長就任。
趣味・愛犬「きなこ」の散歩



名物鰻のせいろむし(柳川市)



西鉄柳川駅(柳川市)

11月13日、柳川市で開かれる「みちづくしin福岡」。福岡県南の魅力を堪能してください。
「ゆつら〜っと」時流れ 水流るるまちへ おいでめせ

江戸時代の地図を見ても歩ける、昔のままの道や掘割が残るまち **懐かしい柳川。**
有明海沿岸道路などの広域道路が充実し、新柳川駅がグッドデザイン賞を受賞 **新しい柳川。**

柳川といえば、掘割を『どんこ舟』で巡る川下り。秋はコース沿いの美しい紅葉をお楽しみ頂けます。

川下りコース沿いの水郷景観は、北原白秋をはじめとする多くの文人に愛され、柳川に暮らす人々に受け継がれてきました。その「水郷柳河」の景観が、3月国の文化財として国指定名勝となりました。

また、柳川の味と言えば、鰻のせいろむし。ご飯にタレをまぶして蒸し、香ばしく焼いた鰻の蒲焼きをのせて再度蒸す手間ひまかけた絶品です。ぜひ一度ご賞味ください。

県南地域を結ぶ有明海沿岸道路は、着々と工事が進み平成29年度末、ついに沿線4市(大牟田市・みやま市・柳川市・大川市)が直結します。また、3月に供用開始した新柳川駅・東西駅前広場・自由通路がグッドデザイン賞を受賞、10月4日には柳川の四季を表現した柳川観光列車『水都(SUITO)』が運行を開始しました。懐かしい

柳川と新しい柳川をゆつら〜っと楽しみにおいでめせ。

■大川の誇り、昇開橋、大川組子

筑後川にかかる筑後川昇開橋は、昭和10年旧国鉄佐賀線の鉄橋として架橋され、中央部が約23mの高さまで上昇し、大型船が自由に航行できる東洋一の可動式鉄橋で、「国の重要文化財」、「機械遺産」にも認定されています。

筑後川の河口に位置する大川は、筑後川上流の木材の産地・日田より川を下ってくる材木の集積地として発展してきました。伝統産業として発展した大川家具とともに最近注目を集めているのが「大川組子」です。細かく割った木材を一つ一つ組みながら、精巧な幾何学模様の組み合わせで図柄を表現していく技法で、JR九州クルーズトレイン「ななつ星」や「或る列車」にも採用され、脚光を浴びています。

大川は、昭和初期から「影を慕いて」をはじめとして、4000曲にあまる歌謡曲を作曲し、大ヒットさせた作曲家「古賀政男」の故郷で、市内の記念館には多くのファンが訪れています。

■うきは

「みどりの里・耳納風景街道」

ゆる〜っと、ほっこり、うきは歩いてみませんか

東西に屏風のように連なる耳納連山の北麓に「みどりの里・風景街道」があります。山に湧き出る清水は田畑や木々を潤しながら、巨瀬川へ。そして悠々たる筑後川へと流れ込みます。この山と川の豊かな恵みを受けながら、歴史はかたちづくられてきました。

人びとの交流の歴史がもたらした事実と木々の恵みは豊かで、中世の歴史と文化をいきいきと今に語り継ぐ。彼岸花咲く棚田と昔と変わらぬうきは市吉井や、草野(久留米市)など白壁と疎水の町並みが見どころです。

ゆつくりと、のんびりと、四季折々の風景と物語にあふれたみどりの里風景街道を散策してみてはいかがでしょう。発見があります。

いあこやつ

九州各県の道守会員による交流会議『みちづくしin福岡2015』の柳川での開催を心より歓迎申し上げます。また、道守の九州大会が県庁所在地以外では初めてここ柳川で開催できますことを心より嬉しく思います。

「協働」で市民と行政が手を携え公共空間を守る道守活動は、まちを美しくするだけでなく、市民と行政とのつながりを強め、市のまちづくりの大きな力になっています。改めて皆様の活動に敬意と感謝を申し上げますとともに、交流会が実り多きものとなりますように祈念いたします。皆様のご来柳をお待ちしております。



柳川市長
金子健次



宮原坑跡と三池炭鉱専用鉄道敷跡(大牟田市)



紅葉の柳川を川下りや散策(柳川市)

の跡を見ることができます。



三池港閘門の現在と竣工時の様子(大牟田市)



大牟田市石炭産業科学館蔵



白壁土蔵の町(うきは市)



つづら棚田と彼岸花(うきは市)



よいいコスモス街道(うきは市)



重要文化財・筑後川昇開橋(大川市)



大川組子(大川市)―「ななつ星」にも採用

「新しい公」―道守活動 輪を広げ つながろう!!

「みちづくし in福岡2015」が11月13日、14日に柳川市で開かれます。平成19年以来、福岡県にとっては2巡目、第12回目の大会開催となります。『新しい「公」―道守活動 輪を広げつながろう!!』をテーマとしました。

『道守九州会議』として昨年発足10周年を迎え、新たな地平へ踏み出しました。今、設立趣旨である「新たな公」への動きが芽を出し、「行政と住民が手を携え『協働』で道を守るという意識」に立ち返り、輪を拡大し繋がっていくことをイメージした大会にしたいという想いです。

交流会は第1部・2部の構成で、第



柳川川下り



昇開橋



うきはコスモス街道

1部ではメインテーマを元に福岡県南地域と一緒に道守活動を行っておられる首長による対談を行います。第2部では、道守、道の駅、風景街道の三者連携の取組について意見交換を行います。交流会では、皆さまに福岡の郷土料理やお酒でもてなしを考えています。

2日目の現地体験学習会はコースA・Cの3コースを設定。コースAは柳川の魅力を感じていただくまちあるき「柳川の人・まち・味ふれあい歩きと川下り」。コースBは今年世界遺産登録で盛り上がっている大牟田と大川2市を堪能するまちあるき「世界遺産・重要

文化財を巡る有明海沿岸の旅（大川市・大牟田市）。コースCはコスモスやサルビア咲き誇るうきは市を巡り秋の味覚を満喫いただく「花と実りを満喫・うきはの旅」。どのコースも魅力がいっぱいです。



大川道守活動



おおむた花街道プロジェクト

▼交流会・第1部

交流会第1部は、福岡県南地域で市民と共に汗を流し道守活動を行っていただける首長による対談を行います。温かな対応、何気ないおもてなし、清掃活動等、柳川市が考える『おもてなしの心』を伝えたいと、金子健次市長（柳川市）、道守活動を支え、支援を行うための組織強化や高校生等と道守活動の連携にも積極的に取り組む鳩山二郎市長（大川市）、三池炭鉱関連施設の世界文化遺産登録もあり、盛りあがりを見せる大牟田の街を綺麗にする活動の更なる発展に期待したい古賀道雄市長（大牟田市）に登壇いただきます。コーディネーターは、学生達を積極的にボランティア活動に参加させておられる安立清史氏（道守ふくおか会議 代表

▼交流会・第2部

第2部では、「三者連携（道守・道の駅・風景街道）の取組み」と人と道と風景をつなぐ」と題し、「道守」とも繋がりがあある「風景街道」や地域の拠点としての「道の駅」との三者連携による取組状況から、地域の元気づくりへ向けた今後の方向性を探るパネルディスカッションを行います。

また、素晴らしい活動を行っている各県代表の4団体に活動報告を行っていただきます。会場である水の郷ホールロビーにおいて各県道守会議のパネル展を開催し、皆さまに道守活動について知っていただく場として展開する予定です。

道守・道の駅・風景街道の連携に取組もう

人と道と風景が手を組んで

▼三者でチャレンジ

日本風景街道は、地域の自主性に基づく多様な主体による協働に基づく「美しい国土景観の形成」や、「地域活性化」、「観光振興」等の取組を、道を舞台として進めるものです。発足から7年目を迎え、九州の14ルートが各地で地域資源を活用した取り組みを進めています。

風景街道が目指すものは、にぎわいや元気のある地域です。地域住民による「道守」の活動、また単なる休憩のための施設だけではなく、今や地域の顔となった「道の駅」との新たな連携のあるべき姿について、様々なチャレンジをしています。

今回の意見交換（パネルディスカッション）では、「道守」「道の駅」との三者連携の取組事例について学び、議論を深めることにより、三者それぞれに関する知見を高め、今後の具体的活動を展開していく上での端緒としてと考えています。

▼三者連携で新ステージへ

昨年のみちづくし in大分では、『道

守・新たな地平をめざして』というテーマで、「風景街道」とその風景街道の情報を伝達する「道の駅」、風景街道をきれいにし周辺の良いものを伝える「道守」のネットワークの形成により、それぞれの活動が新たなステージへの一歩を踏み出す、三者連携のスタートの大会となりました。

一方、それぞれの活動が歴史を積み重ね、今後の展開を見据える中で様々な課題あるようです。

▼低い相互の認知度

昨年度に実施したそれぞれ三者の活動状況アンケートでは、「風景街道」は他の「道守」「道の駅」の関係者からの認知度は5割、また「道守」は他の活動者からの認知度は6割と低いものになっており、その活動内容が十分理解されていない状況です。このアンケートは風景街道ルート内の三者を対象にしたものであり、それ以外の地域では、もっと低いものと考えられます。

また、アンケートでは連携することにより、「道の駅」は『地域の観光情報が十分に発信できていない』『売り上げが少ない・利用者が少ない』、また

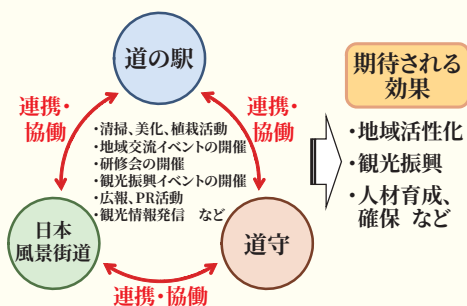
「風景街道」「道守」は『認知度が低い』『地域の観光情報が十分発信できていない』『人材・後継者不足』等への課題に対して三者連携することにより、改善することが期待されています。このように三者の具体的課題に対して、その改善を目指し、目的を共有することで三者連携の重要性が増し、新たな取り組みが生まれてきます。

▼多様な連携の取組み

アンケート対象者の結果から、それぞれ三者に複数所属し活動している方が1/4と、意識せずとも連携の基礎は整っています。また、「風景街道」にパートナーシップとして参画されている「道の駅」も多数あります。

これまでに「かごしま風景街道」では、ウォーキングイベントである『いぶすき菜の花マーチ』において「道の

▼連携・協働のイメージ



※連携とは、連絡を取り合っ、一つの目的のために一緒に物事すること
※協働とは、同じ目的のために、協力して働くこと

駅」と連携し、拠点として特産品のふるまいや市民ボランティアが大会を支援しています。また「みどりの里・耳納風景街道」では、『スタンプリー』で「道の駅」をラリーの起点、休憩ポイント等に活用。『久留米つつじマーチ』では「道の駅」をコースに含み連携・協働しています。

「日南海岸きらめきライン」では、これまでの連携活動に加え、さらに一層発展させるため多様な連携が議論されています。

▼今後の方向性

「道の駅」は、全国各地で地域活性化の拠点とする取組みが進展しています。元々トイレ・休憩施設として生まれ、今や「道の駅」が地域の顔として、雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上にも貢献し、地方創生の拠点として取組が始まっています。

「道守」「風景街道」の活動も、官民・住民連携による地域づくりが様々な分野で改めて注目され、新たな展開が期待されているところです。

今後、様々な取組みや活動が増えていくことと思います。その情報を共有しながら、それぞれの活動の立場で、課題にあった目的を持ち方向性をあわせ、実践を積み重ね三者連携の礎を創っていきましょう。

道守、道の駅、風景街道の連携報告

道守大分会議

東九州道開通、さらに元氣な浦々に

大分県の南東端。リアス式海岸が、天然の良港となり、たくさん海の幸をもたらす佐伯市蒲江。「陸の孤島」といわれてきたこの地域に2015（平成27）年に待ちに待った東九州自動車道（佐伯IC～蒲江IC間）が開通し、活気にあふれています。

「蒲江道づくりを考える女性の会」は、東九州自動車道の早期整備を訴える提言活動や、ガードレールのない海沿いの道路や大型車とすれ違えない道路の問題等に正面から取り組んできました。

東九州伊勢えび海道の大ヒット！

観光協会の運営を民間でやることになった際、『伊勢えびを食べた人にソフトクリームプレゼント!!』というキャンペーンを始めました。それが、「伊勢えび祭り」のスタートでした。

その後「東九州伊勢えび海道」と銘打って、周辺の地域や隣県にまで広がりました。「蒲江・北浦大漁海道」と呼ばれ「日本風景街道」に登録され、海道を通じお互いの地域を発展させようと交流を深めています。

道守×風景街道×道の駅の3者連携

しかし、蒲江は観光バスも入りにく



蒲江インターパーク(大分)

い、公共トイレもあまりないので、道の駅かまえを利用してもらっています。

道の駅に立ち寄ると、新鮮な魚介類を格安の

値段で売っており、大変満足をいただいています。週末には、100台以上ある駐車場が満車になるほど。

道が開通し、受け皿となる道の駅がある。そこには元氣のいい人が住み、来る方々を道守精神で迎え入れる。昔ながらの「浦文化」を継承し、道を通じて交流を深めている。

（日豊海岸シーニック・バイウェイ 橋本正恵）

道守みやざき会議

風景を磨く活動を展開

日本風景街道「日南海岸きらめきライン」は宮崎市・日南市・串間市の道守さんたちが中心となって、平成18年度にルートとしての活動を開始した。最大の特徴は、日南海岸国定公園（ローパーク）の美しい風景の中で迎える地域と訪れる人との交流によって地域が元気になることを目指して活動して

いることだ。

美しい風景づ

くりは、昭和11年に観光の父と

敬う故「岩切章

太郎」氏が日南

海岸沿線にフェ



暖竹一掃大作戦後の「いるか岬」

ニックスを植えたことから始まり、雄大な日向灘を望む風景に南国らしいエッセンスを植え足して創り上げた景観資源である。その景観を損ねているのが暖竹や実生木などの繁茂。そこで昨年度から民・学・行政が一緒になって「風景を磨く」活動を展開している。民と行政が分担をしながら景観を損ねている暖竹等を退治する、名付けて「暖竹一掃大作戦」である。

私たち「日南海岸きらめきライン」は、先人達の贈り物を如何に引き継ぎ、後世に遺していくかが最大の課題であり、美しい治道景観を磨く事が最大のミッションである。そこには「道守」と「日本風景街道」の区別はない。

（日南海岸きらめきライン 谷越衣久子）

道守ふくおか会議

うきはの景観を創る3者連携

福岡県うきは市では、「道守活動」「道の駅うきは」、「みどりの里・耳納風

景街道」の3者がそれぞれの特性を活かして、うきはの美しい農村景観を創りあげ、そして守っています。

道守は、市内を東西に走る国道210号、同浮羽バイパス、県道浮羽草野久留米線沿いを中心に、7つの団体が活動を行っており、四季折々の花々が道路沿いを彩っています。久留米市から続く「みどりの里・耳納風景街道」は、東西一直線



みどりの里・耳納風景街道

に伸びた耳納山地に沿った地域に広がる、歴史的資源、森林や清水などの自然資源や風景をつなぎ、訪れる人々の心をなごませられます。そして、平野と山地とが交わる高台に位置する「道の駅うきは」では、展望デッキに立つと、遠くまで開けた筑後平野の空間的広がりを体感することができます。

うきは市の景観は道と一体となり、多くの人の関わりを通じてこれまで維持されてきました。今後、3者の連携を一層強化することにより、これまで以上に美しい「うきは」を形成し、多くの人々に訪れていただけるような地域を創れるよう、取り組んできたいと思っています。

（うきは市副市長 吉岡慎二）

各県道守会議からのメッセージ

道守佐賀会議

もつと、つながりの輪を

連携という言葉で「家の前の道を1m多く掃除することによって、道がきれいになり、つながりができる、それがまちづくりの原点ではないか」と言われたことを思い出します。

その言葉を原点に、「佐賀城下ひな祭りおもてなし清掃」を、毎年準備から後片づけまで、道守や市民、企業と行政との連携作業により行っています。活動を重ね、親子連れや企業の参加者が増えてきていますが、行政との連携なしでは、ここまで広がらなかったと思っています。

この「つながりの輪」をもっと広めるためには、私たち市民団体のできる事や協力してほしい事、行政ができる事などをざっくりばらんに話し合い、「楽しみながらつながっていく仕組みづくり」が大切だと考えています。

私は、「シュガーロードの観光ルート化」を目指しNPOで活動を進めています。長崎、佐賀、福岡をつなぐ長崎街道があるのに、なかなか進まないのが現状ですが、「つながりの輪」を広めることにより、観光ルートが実現し「新たな公」に繋がると考えています。

（活気会 三原ユキ江）

道守ながさき会議

広がる、顔の見えるつながり

道守長崎会議は長崎地区、西海地区、小浜・雲仙地区、佐世保地区、諫早・大村地区の5つの地区が有り、各地区間が車で1時間～2時間程度（西海地区～小浜・雲仙地区間は4時間程度）と広い範囲で活動を行っているため、2ヶ月に1～2回、長崎市内で世話人会議を行い、各地区の活動報告や課題、活動予定等を話し合い今後の活動に生かしております。

年1回、地区交流会（今年は1月に佐世保地区で予定）を行ったり、都合のつく方は他地区の活動にも参加し、様々な道守の方々とお会いし、体験することにより、顔が見えるつながりが広がっております。

風景街道「ながさきサンセットロード」にも参加しており、11月22日(日)は一斉清掃を予定しております。一般の方も参加できますので興味のある方は是非参加してみてください。フォトコンテスト等も予定しており、見応えのある夕日が皆様をお待ちしております。

（道守ながさき会議代表世話人 牧圭子）

道守くまもと会議

道守が結ぶ、人と心

「松橋ポトスの会」は平成13年に設立、今年で15年目を迎えました。会員相互の親睦を深めながら、宇城市及び周辺地域の発展と住民の生活向上を図ると共に男女共同参画社会を実現することを目的とした事業を実施しています。

会員には農業従事者が多く、農産物を通じて「食と環境」を大切にする活動を中心掛けて参りました。地産地消の取り組み、難病支援におけるボランティア活動のほか、自治体主体のイベントにも積極的に参加し、宇城市一大イベントでもあるフラワーフェスタに毎年欠かさず出店参加しています。



道守活動としては、主に3号線沿い横の道守花壇の通年管理です。多くの方より「きれい」「心が和む」と言って頂けるのが、なによりの励みとなっています。

自然に耐え、蔓を伸ばし、株を増やすポトスのように、運動の輪が広がっていくことを願っています。

（松橋ポトスの会 西岡ミチ子）

道守かごしま会議

念願の鹿児島二つ目の風景街道

鹿児島県に、念願の二つ目となる薩摩よりみち風景街道が誕生しました。この風景街道は、南九州西回り自動車道の開通により通過地点になる危機感と、地方創生の期待感により「ぜひこの地に風景街道を作りたい!」という地域住民の思いから始まりました。

昨年の9月12日は、県や5市1町の自治体にご協力お願いのため東奔西走する日々が始まった日です。「天草まで来ている風景街道を、海を渡り、鹿児島までつなげよう!」。各自自治体に初めて提案した当時は、ずいぶんと温度差があったものです。

その後、官民共同での勉強会、道守かごしま座談会でのワークショップ、パートナーシップの連携強化など議論を重ね、多くの壁を越え、一年後の同じ9月12日に、晴れて登録のご報告が出来たことを嬉しく思います。

「薩摩よりみち風景街道」の登録により九州風景街道が“ぐるっと繋がり”今後多くの人が訪れるようになると期待しています。メンバーが共通目標を持ち、より連携を深め、ルートの一体感を奏でながら新たな魅力を創出してまいります。（道守かごしま会議代表世話人 田島直美）



門司港レトロ花の会集合写真



心を込めて育てた彼岸花



門司港の夏を彩るひまわり

福岡 地域からの報告 門司港レトロ花の会

愛する門司を
花いっぱいにしていきます！

道守ふくおか会議
(北九州ブロック)
から、九州の最北端
である門司港を舞台に熱心に活動を
続けられる「門司港レトロ花の会」

私たちの 道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題
と向き合う。それは私たち自身の
未来を考えること。歩いて楽しく、
暮らして楽しい地域づくりのため
に、九州各地の道守会員が取り組
むスタイルやアイデアなどもさまざ
まな活動を紹介しています。



わたしの好きな道

有明海沿岸 四季の彩り、干拓の歴史

～佐賀県白石町の国道444号線～

佐賀平野に移り住んで二十五年ほどになるが、暮らしはじめのころは山が遠方にあり、海が近くに感じられるわけでもなく、起伏のないすこぶる平たい土地と思っていた。その後、有明海の広大な干潟、佐賀平野の開墾や干拓、海から土地をつくり続けてきた人々の格闘を知ることになる。もとは干潟や海であったところに、家、村、まち、水路、道路をつくってきたことに想いを馳せると、そこに「風景」が感じられる。

ここでは佐賀県白石町(旧福岡町を含む)の沿道の風景を取り上げたい。有明海沿岸には百年一干拓という言葉があるように、中世や近世の新田開発以降、開墾や干拓を繰り返してきた。土地をつくるために、時代ごとの海に對置する堤防、それらが層状に展開する様は土地に刻まれた歴史ともいえる。白石町の国道444号線はかつての堤防を利用して通っており、今でも道路が両側より若干高いことがわかる。この「若干の高さ」はかつての堤防が海と陸をわけ、かつ労力を最小限に抑えるため高さであり、人工的な微高地に道路が通っているのである。

沿道には、水田、レンコン畑、タマネギ畑が広大に広がる。これらの営みは季節により変化するため、四季の彩りが広大な平野に展開する。道路周囲の家々は散居といって、家ごとに田畑の中に一つ一つ点在している。他方で海の近くの近世や近代の干拓地では旧堤防に依拠して家が列状に形成しており、国道444号線の海側、その遠方に大きな町があるようにさえみえる。よく観ることで過去から今日に通じる人々の営みを感じることができる。

幸いにも、ここには近年の幹線道路沿道のようなロードサイドショップの乱立はみられない。また、佐賀平野では高規格道路の建設がすみ地域間交通が格段に進捗しつつある。これらは5～6m程の盛り土式の道路で、車からの車窓として佐賀平野が一望できる新しい風景をつくりだしたといえる一方で、集落や地域を道路が分断した場合もある。この国道444号線は、土地の形成過程から生じた道路の線形ともいえるようか。

道路やその沿道が風景となり得るためには、周辺の土地や歴史との関係、人々の営みの関係が重要である。ひと昔前の道路は図らずして地域との関係があったともいえるが、地方や田園地域の風景は、もとの自然と人為が折り合い付けていること、それらの認識やその顕在化、特に佐賀平野では構造物と土地や周辺地域との関係性のデザインが大切ではないかと思う。

インタビュー 北里幸良会長

★活動のきっかけは？

大きな病気をしたのがきっかけです。もうダメだと思ったのですが、結果的に助かりました。その後、助かった命ならば何か役に立つことをしたいと思ったのがきっかけです。

★範囲も大きく大変では？

いいえ。ちよつと自分の庭が広いだけだと思っています。何よりも自分達の愛する門司がもつときれいになれば何よりも嬉しいのです。

★支援をお願いしたいこと

散水栓及び倉庫の設置についてです。きれいな花を育てるためには水が欠かせません。水と毎日の活動道具を置く場所を確保できることが活動を長く継続させる為のポイントかと思ひます。また周囲の人へもサインボードの設置などで活動を広く知ってもらふ分野にも応援をお願いします。

福岡

北九州市道路サポーターの会

約1万2000人が参加

北九州市では、「北九州市道路サポーター制度」を設け、地域の皆さんによる道路の清掃や点検、花植えなどのボランティア活動を応援しています。

この制度は、道路サポーターに登録いただいた皆さんに、清掃用具や花苗の支給などの支援を行うもので、現在、地域の自治会やまちづくり団体、ボランティア団体の方々をはじめ、企業や学校など様々な団体の方に、きれいで気持ちの良いまちづくりにご協力をいただいています。

平成27年8月現在、206団体、約11,800名の方々が活動しており、「北九州市道路サポーターの会」として道守にも加盟しています。

平成27年10月には、制度が発足して10年を迎えることから、今後も活動の輪を広げるとともに、登録団体の皆さんの活動がさらに活発なものになるよう、皆さんとともに道路サポーターの会を盛り上げていきたいと思っています。



第10回 道路サポーター総会

(北九州市道路サポーターの会事務局)



プロフィール

後藤 隆太郎 (ごとう・りゅうたろう)

佐賀県佐賀市在住。佐賀大学大学院工学系研究科准教授、建築計画、農村計画分野から地域の居住や景観を調査研究。

佐賀



エスイーリペア株式会社「呼子大橋橋守の会」

橋梁技術の伝承と地域振興になれば

プレストレストコンクリート斜長橋の原点ともなった「呼子大橋」はその雄姿と、観光地「呼子」のシンボルとして名前は県外に広く知れ渡っています。名護屋城や呼子のイカを食しに訪れる観光客や橋梁技術者の見学者誘致につながれば、地域振興はもとより橋梁技術の伝承・修学の機会を与える事となると考え、弊社は平成二十三年十月四日「呼子大橋橋守の会」を立ち上げ、社会貢献の一環として、呼子大橋に隣接する公園の清掃活動を始めました。毎年春と秋の年二回活動を行っています。平成二十五年には、開通二十五年にあたり唐津市・地元区長出席のもと山桜の記念植樹を行いました。今後もエスイーリペアは地域振興に関わる諸活動に積極的に参加して参ります。

(代表取締役社長 石野隆之)



記念碑前清掃活動



清掃活動後 ～呼子大橋橋守の会～

長崎



大島町環境美化を考える会

黄色いガザニアと白い橋
「汗と団欒」も自慢です

大島町のシンボル大島大橋が完成し、環境美化を考える会が誕生したのは平成11年です。橋に続く道に花を植え、除草作業、空き缶の回収などに取り組んでいます。春先には5kmの道沿いがガザニアの花で黄色い絨毯のようです。白く輝く大橋は1095mの斜張橋。長崎県最長で周囲は海や山に囲まれ、自然がもつとも美しい本島への陸の玄関。ドライブや釣りなどの来客のみなさんも道路沿線の美しさに心とむようで感謝されます。

15人で結成した同会も現在116名の会員で月1回の除草作業と花手入れ、4～5回の清掃が主な活動です。

協力し一緒に汗をかき、作業後の団欒が楽しみの一つです。道路美化で景観向上やイメージアップ、人と人とのつながりが美しい街、住みよい街、元気な街につながると 생각합니다。

(代表 田口昭子)



熊本



道守くまもと会議

道の日一斉清掃を実施

今年も8月10日「道の日」に合わせて、県下一斉清掃を開催。メイン会場 熊本市白川公園(国道3号沿い)をはじめ、県下約130ヶ所の関係箇所のご協力のもと、5,000人以上の方々に参加していただきました。熊本市の市政だよりやNHK、民放各局の事前告知、当日の取材も入り、大変賑やかな清掃となりましたことに感謝しております。

また、熊本県で一番交通量の多い水道町花壇ほか県内31ヶ所の道守花壇の管理、恒例の「参勤交代・徒歩の旅」(NPO法人「自然を愛する会JOC」主催)なども行いました。

今春には新しく「上天草さんばーる」「うしぶか海彩館」「あそ望の郷くぎの」が道の駅に選ばれ、風景街道「阿蘇くまもと路」「あまくさ風景街道」と共に道守活動がさらに広がることに期待しています。

(道守くまもと会議事務局)



道の日一斉清掃



道守花壇

大分



杵原八幡の参道を守る有志の会

杵原八幡様の参道を守る

私たちは、大分市西大分の国道10号線から奥へ入った場所に鎮座する、杵原八幡宮のある緑豊かな自然に恵まれた八幡地区を不定期に数名で清掃しています。

杵原八幡宮は社伝によると、天長4年(平安時代初期の827年)、延暦寺の僧・金亀が宇佐八幡に千日間籠り「豊後国に別宮を建てよ」というお告げがあり、分霊を祀ったのが発祥といわれています。国府所在地の八幡宮となり、豊後国一宮と称し、源頼朝をはじめ、皇室、歴代国司のほか、中世以降は大友氏、江戸時代には歴代府内藩主も厚く尊崇した由緒ある八幡様です。

周囲の森は400年以上、手が入っていないと言われる原生林が覆い、中でも樹齢3,000年余り(縄文時代後期)の国天然記念物クスの巨木は見るものを圧倒し、荘厳さを一層際立たせています。特定植物群落にも選定されている杵原の森ですが、台風や積雪により枝が折れたり、人の手がいらないことで森が荒れたり、身近に参拝しづらくなっていました。そんな中2011年、本殿や楼門などの建物が国指定重要文化財に指定され、徐々に多くの参拝者が訪れるようになってきました。参拝者が気持ちよく来て、帰っていただくために、この歴史ある道の景観維持と、神道を整え、鎮守の森を守っていききたいと思っています。――杵原への道がかつて別府と大分を結ぶ山側の本道として、通行されてきたことを忘



神道の清掃活動

(代表 安部香織)

宮崎



道の駅酒谷

毎月「道守の日」に活動

私たちの住む「酒谷」は、宮崎県南部、日南市と都城市を結ぶ国道222号線沿いに位置する中山間地域です。酒谷川の清き流れと、餌肥杉が連なる山々、日本棚田百選の坂元棚田や小布瀬の滝など、地域資源に恵まれた自然豊かなところ

です。地域活性化の拠点である「道の駅酒谷」の皆さんは「道守みやざき会議」発足時から道の駅沿いの国道222号線、約4キロのごみ拾いを行っています。初めは「道の日」や「道守の日」など年に2～3回の道守活動でしたが、3年前から毎月第3火曜日を「道守の日」とし、休みの社員等を中心に活動しています。なかなかごみがなくなることはありませんが、それでも活動を始めた頃と比べるとかなり減ってきています。また、地域住民と桜・あじさい・彼岸花・紅葉などの苗作りや植栽等も行っています。このように四季を通して景観を楽しめる道づくりを目指したいと思っています。

(酒谷むらおこし株式会社 野辺和美)



地域住民と植栽



「お疲れさん」、「道守の日」活動後

鹿児島



公益社団法人 川薩法人会女性部会

フラワーポットに花を!..
ハチドリの一としずく

当会は平成7年11月の創立以来20年、国の根幹である「税」の分野を中心にした活動を理念とし、国家・社会へ貢献する組織として、地域に密着した社会貢献活動を行って参りました。

国の将来を担う子供たちへの「租税教室」、「税に関する絵はがきコンクール」や、「手作り雑巾の寄贈」などの社会貢献活動の中でも大きな柱の一つとして、薩摩川内市を訪れる人々や道行く人々を花でおもてなし、見る花を通じて心に元氣と癒しを提供したいとJR川内駅前道路のフラワーポットに花を絶やさない活動を行っております。

これは、国が行う道路などのインフラ整備はすべて国民の税金で賄われておりますが、その建設や維持管理に要する費用は莫大で、国の思うに任せられないことも事実であります。

そこで、少しでも私たちにできることはないかと私たちに話し合い、「ハチドリの一としずく」の思いで「フラワーポットに花を!」の活動を行っています。そして「道」と「美知」をコラボしたという思い、又この活動をすすめる中心人物で、今年の9月に急逝された当部会員のためにも、この活動を永続しようとの思いを新たにしております。

(公益社団法人 川薩法人会女性部会事務局)





美山地区(薩摩焼の里)



出水麓の薩摩武家屋敷群



出水市の武家屋敷



妙円寺参り(日置市)



鹿島断崖(甑島)



ツルの渡来地(出水市)



長目の浜(甑島)

薩摩よりみち街道は、シベリアから越冬のため飛来するツルの大群と東シナ海に浮かぶ、国定公園に指定(平成25年)されたばかりの手つかず島・甑島(こしき島)に代表される大自然のパノラマ、そして敵しい関所が設けられ「独立国・薩摩」を守った独特の歴史物語を語る武家屋敷や「麓」など、魅力的な資源があふれている。

●舞うツル、温かさで暖かさ

ハイライトは1万羽を数えるナベツルの大群だ(特別天然記念物)。越冬のため10月、厳寒のシベリアから中国、朝鮮半島を経てこの出水平野に1万羽以上が飛来、冬を過ごす。マナツル、ナベツル、アネハツルが翼を広げ舞い上がり、空を滑空する光景が目の前に展開する。出水市ツル観察センター2階の展望所からは、飛来地の全体風景をカメラに収め、またツルの生態を学ぶことが出来る。

ツルたちが出水平野を越冬地に決めたのは、何より鹿児島島の冬の「暖かさ」、そして、ツルたちに岡田孫子さん(初代監視人)をはじめ、エサを与え続けた人々の「温かさ」に魅せられたからだろう。ツル舞う風景は、ツルたちと地元の人びとの長い長い交流が造りだしたものなのだ。

春まだ浅いころ、北帰行が始まる。隊列をなして、シベリアに向かうツルたちを見送る人たちが、行人岳(標高394m・長島)の展望台に集う。ツルたちは白銀の翼を広げ、手を振り別れを告げるかのように羽ばたき、上昇気流に乗って、空高く舞い上がり、北の空に帰って行く。

●甑島―島全体が自然博物館

出水平野を舞うツルたちにも、東シナ海に浮かぶ上・中・下甑と3つの島が連なる「甑島」が目に入っているに違いない。

九州全土の覇権を握るべく博多まで軍を北上させ、島津軍だったが、25万を数える秀吉軍に膝を屈した。降伏の場が薩摩川内市(泰平寺)にある。

また、西軍に属して関ヶ原の戦いに臨んだ島津軍団は敗色を感じるや敵の総大将・家康本陣を中央突破(薩摩の退き口)、惨憺たる退却、千を数えた武士団は数十名しか生還できなかった。その苦労を忘れることなく、薩摩の青年は毎年秋「妙円寺参り」で約20kmを歩き、追体験している。薩摩の精神を受け継ぐ郷中(青年)教育―「兵子修養」が川内、出水地区に武家屋敷などと共に、今も息づいている。

秀吉の命で、朝鮮出兵をした義弘は陶工を連れ帰った。華麗な薩摩焼の郷・美山(苗代川)には沈寿官窯がある。現在、十五代目。作家、司馬遼太郎氏はシリーズ『街道を行く』で「まるで西郷さんと思わせる風貌」の先代・沈寿官氏との出会いを通じて、薩摩の人間風土を描き、楽しんでいる。

●情報鎖国のための関所

今も、薩摩街道を歩き、学ばイベントが続いている。熊本から難所・三太郎峠を越えた藩境には、薩摩藩三大関所「野間之関所」(米ノ津)があり、取り調べの厳しさは、全国に尊王を説いて遊説した高山彦九郎を嘆かせ、日本外史の頼山陽も長く足止めされた。

幕府をはじめ他国に薩摩藩の情報を漏さないためで、幕府隠密が闇に葬られた話や、鹿児島に五石橋を架けた石工・岩永三五郎でさえ最後の仕事、江ノ口福を架け終えて、故郷の肥後への帰路、口封じの刺客を差し向けられたという、真偽定かではない口伝が残っているほどだ。

配備された郷土団は、出水麓だけで三千人に近い。しかも、藩内でも武勇を誇るつわもの軍団であった。「麓」は、小規模ながら一種の城下町と武家屋敷で、

『薩摩よりみち風景街道』

ツルが舞い、手つかずの甑島、歴史を語る「麓」



舟笛で 時知る暮らし 島は秋(森喜代子)

川内港から運航、串木野港からフェリーで「風景海道」を約1時間、地球史を物語る島に着く。絶壁や奇岩に迎えられる甑島は、「絶海の孤島」を味わえる、密かな観光島として、最近、訪れる人たちが増えてきた。

市職員、三宅優江さんは古地層の研究者で、彼女によると、この200m近い高さを持つ絶壁は、約8千年前の鹿島断層(下甑、日本の地質百選)で、近くの同じ地層から、日本で初めて草食角竜ケラトプスなどの化石も発見され、島全体が自然博物館ともいえる。薩摩川内支所には、復元された恐竜の骨格が展示されている。「甑」はコメ蒸し籠のことで、それに似た奇岩があることから名づけられたが、別名「五色島」(こしきじま)。多彩な色を持つ自然豊かな島だ。

●薩摩の人間風土を楽しむ

薩摩よりみち風景街道は「歴史の道」でもある。

藩内各地に点在していたが、藩境のこの地は、軍事的な備えが厚かった。

鎌倉時代以来の武家支配を伝える「地域資源」も多い。中でも「入来麓」は領主の館(御飯屋)を中心に、武家屋敷が展開する。屋敷を囲む石垣の上にはお茶の木や知覧の武家屋敷と同様、イヌマキが植えられ、独特の景観を造りだしている。

●隠密の英国留学

藩内の情報漏れには厳重だった薩摩藩だが、海外事情には常に目を配っていた。琉球支配を通じ、あるいは密貿易で情報と富を蓄積、明治維新の原動力となった。九州新幹線のターミナル・鹿児島中央駅前に「薩摩スチューデントの群像」がある。後に大阪商工会議所代会頭となる五代友厚の進言で、幕府に秘密で十九人の若者を英国留学させた。

その出発港が羽島(串木野市)で、大海に向かう船をイメージしたレンガ建ての記念館が、日本近代化に尽くした彼らの活躍を伝えている。その一人長沢鼎は米国カリフォルニアで「ぶどう王」となり、来日したレーガン大統領がその功績をたたえた。このほか東京国立博物館の建設を進めた町田久成、初めてビール製造を手掛けた村橋久成、文相・森有礼など多くの人材がこの英国留学で育っている。日本の近代化遺産が世界遺産に登録されたが、それを担った人々の出発点の一つを体感できる貴重な記念館だ。

交付式―会長を中心に



薩摩藩英国留学生記念館



入来町麓 伝統的建造物群保存地区



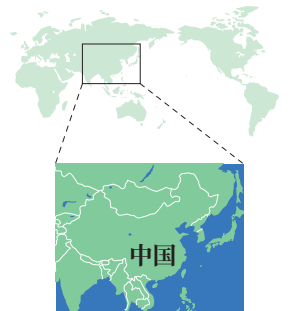
泰平寺(薩摩川内市)―島津降伏の地



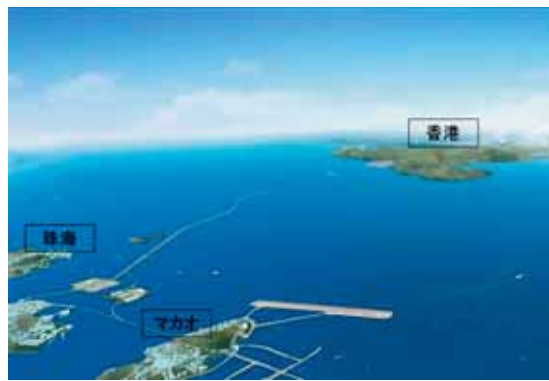
恐竜の骨格展示(甑島)



地層の説明をする薩摩川内市職員の三宅優江さん(右)



平成26年末時点の中国の高速道路総延長は11・2万km。1990年代から建設を推進し、1999年に初めて供用延長が1万kmを上回った中国の高速道路であるが、近年は、日本の高速道路総延長に匹敵する約1万kmを毎年新規供用している。2013年には、中国交通運輸部が新



香港・珠海・マカオ大橋(イメージ図)



都市部の渋滞(北京市)

しい国家道路網計画を発表し、2030年までに現計画に追加して新たに20万km以上の国道を新規整備する計画を打ち出すなど、今後も道路整備に力を入れていく方針だ。中国経済も道路整備を始めとする強力なインフラ投資に支えられ、2010年には日本を抜いてGDP世界第2位となり、今もなお、毎年7%程度の経済成長が続いている。

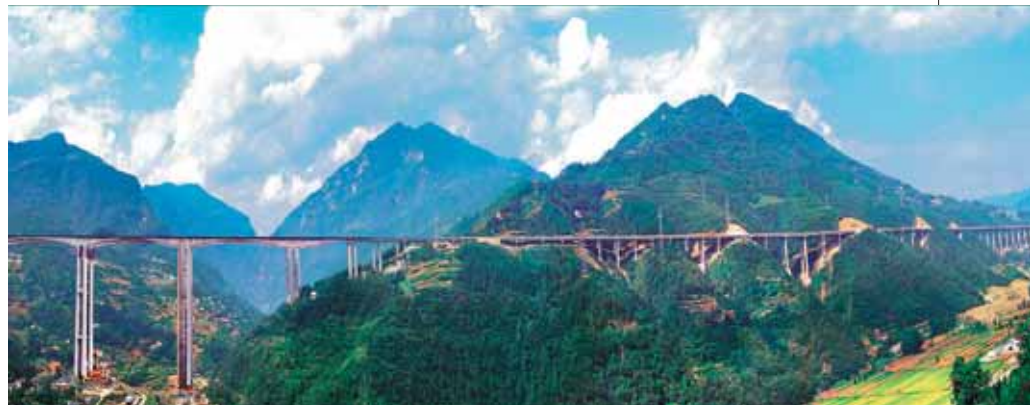
中国の道路というと、「安からう悪からう」のイメージを持っている方がいらっしゃるかもしれない。しかし、いまや中国の道路設計、道路工事の技術は世界最先端を走っている。これは、中国の優秀な技術者が日本や欧米などへ留学して最先端の土木技術を学び、帰国後、現場の最前線で活躍しているためだ。香港・珠海・マカオ大



毎年1万kmの高速道路が新しく開通 渋滞や大気汚染も課題に

橋や滬蓉西高速道路といった国家威信をかけたプロジェクトに採用されている技術は、日本の道路技術者たちも舌を巻くほどである。現在整備中の香港・珠海・マカオ大橋は、香港、広東省珠海市、マカオを繋ぐ上下6車線、延長約50kmの大型海上道路であり、約30kmの海上部分のうち約23kmが橋梁、約7kmが沈埋トンネルで構成されている。2016年に完成予定であり、完成すれば世界最長の海上大橋になる見込みである。

一方で、道路整備以外の道路施策は遅れていると言わざるを得ない。有料道路の料金制度、高速道路サービスエリアの充実、道路の維持管理、災害を想定した道路計画など、私も中国政府の道路部局から日本の道路施策について質問を受けることが度々あった。増え続ける自動車による都市部での交通渋滞や大気汚染なども社会問題になっており、中国政府も今後の重要な課題として認識している。これまで、いけいけドンドンで道路整備を突き進めてきた中国の道路行政。道路を取り巻く周辺環境についてはほとんど考慮してきていなかったように思う。これからは、道路ユーザーや地域住民に配



滬蓉西高速道路



プロフィール
留守 洋平
国土交通省九州地方整備局
道路部道路計画第一課長。
2012年3月から2015年3月
まで在中国日本大使館(北
京)へ出向。2015年4月より
現職。

慮した道路施策も必要になってくるであろう。「道守」のような住民との協働による取組も、近い将来、中国に紹介する機会が出てくるかもしれない。

道守 人物伝

新たな気概で道守活動を

NPO道守長崎副理事 宮田 隆さん



今年十月、長崎県立某高等学校で「新しい時代の新しい人々へ」というタイトルで講演した。今の高校生たちはまさに新しい時代の確かな主役であり明るい希望の星、期待の星である。現代の若者を信じたい。若者たちとの対話に光あり。

「道守九州会議」も一昨年の長崎大会で十周年の節目を迎え、「道守新時代」を宣言し、新たな一歩を踏み出した。次世代の子どもたちも大人世界への痛烈な批判と建設的な提案で議場を沸かした。また、昨年の大分大会では、「道守活動・風景街道・道の駅の連携・交流・促進」が提唱され、日常の道守活動では、地場企業との密な連携があり、発表内容も多岐にわたって、意欲的であった。今年の福岡大会でのサブライズ企画に「新しい時代の道守活動」の在りようを体感したい。



元来、道守活動の原点は「自分の町は自分たちでつくる」「地域にあるものを最大限に活かす」そのための無償のボランティア活動である。「NPO道守長崎」は環境美化活動に対する危機感から企業―学校―道守の連携協同作業の社会実験でその活路を見出してきた。時を経て今やマンネリの作業衣を脱ぎ捨て、新たな気概で新時代の道守活動に挑戦中である。先ずは地域行政に対して道守活動の現場から建設的な提案と対話が不可欠。我が「小浜温泉57」は平成の三大事業「島原半島全域にジャランダ植樹、電線の地中化、自然再生エネルギー温泉発電」の国道沿線活性化に取り組んでいる。

道守たちのトピックス



「別府湾岸・国東半島海への道」登録証交付式



Tシャツ美術館

■新加盟団体のご紹介 道守大分会議

日本風景街道

「別府湾岸・国東半島海への道」推進協議会
市民団体やNPOなど60数団体が加盟している「別府湾岸・国東半島海への道」は、平成25年に指定されたルートです。Tシャツをキャンバスに5市1町の絶景写真をプリントした「48景Tシャツ美術館」開催などユニークな活動を行い、平成26年度には年間優秀活動賞を受賞しています。

昨年の「みちづくしin大分」大会の対談テーマにもなった「道守、風景街道、道の駅の3者連携」を意識して、お互いに「何をすべきか」「何ができるのか」を考えて大会後、道守大分に加入していただきました。そもそも「道守」と「日本風景街道」の加盟団体は被ることも多いですが、実際何をしているか知らない部分もあり、まずはそこから払拭しようと「道守」「風景街道」に「道の駅」を交えてシンポジウムを開催する予定にしています。また、大分は障がい者スポーツにも深く縁があることから、2020年のパラリンピックに向けて、スポーツ用車いすを寄付するための募金活動を3者連携で行うことを考えています。

横顔 道路部長

土井弘次氏



土井弘次部長は、(前)喜安和秀部長の後任として、平成二十七年七月より独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構から現職に就任。京都府出身、今回が初めての九州勤務となります。

全国的にもユニークな活動である「道守」に初めて関わりを持っていただき、「九州ならではのまとまりの良さと結束力で盛り上がりを見せる道守活動の更なる発展に貢献できるよう、皆さまと協働・連携して参りたい」と抱負を語っています。

道守通信 編集後記

○11月13日、14日でみちづくしin福岡が柳川市で開催されます。柳川・大川・大牟田・うきはの4市長さんから新しい「公」についての意見を伺い、前年度からのテーマ「三者連携」についても議論を深めます。翌日の現地体験会は三コースで盛りだくさんです。是非ご参加を！
○薩摩よりみち風景街道が九州で14番目に誕生しました。鹿児島県では2番目のこと。道守鹿児島会議代表の田島さんが東奔西走して生まれた熊本と鹿児島をつなぐ街道です。ツルの飛来で有名な出水、島全体が博物館の甕島、薩摩の武家屋敷跡など見所満載の街道で、訪れた人々が一見の価値ありと評価しています。ツルと共に訪れたいものです。

○企業や団体の道守賛助会員が少しずつ増えています。本当にありがとうございます。今後とも親しまれる道守通信をお届けできるよう頑張ります。

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

大福コンサルタント(株)	(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部	大分交通(株)
太陽技術コンサルタント(株)	(株)建設技術センター	(株)大島造船所 九州営業所
瀧上工業(株)	コーアツ工業(株)	(株)萩島組
宅島建設(株)	(株)駒井ハルテック 九州営業所	(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支店
(株)玉の湯	(株)西海建設	鹿児島土木設計(株)
(株)ぶぜん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかけ)	西日本新聞エリアセンター連合会	(株)地域科学研究所
復建調査設計(株) 九州支社	日鉄鉱コンサルタント(株) 福岡支店	中央復建コンサルタンツ(株)
前田建設工業(株) 九州支店	日本工営(株) 福岡支店	(株)長大 福岡支社
(株)丸福建設	(一財)日本造園修景協会 大分県支部	(株)東亜コンサルタント
(株)水野建設コンサルタント	(株)野村建設	東急建設(株) 九州支店
(株)みともコンサルタント	葉隠会道守部会	(株)東京建設コンサルタント 九州支社
宮崎空港ビル(株)	(株)萩原技研	戸田建設(株) 九州支店
(株)宮崎産業開発	範多機械(株) 福岡営業所	(株)友岡組
宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所	(株)ピーエス三菱	(株)名村造船所 福岡営業所
(株)ヤマウ	(株)日高時計本店	南生建設(株)
(株)ヤマックス	(株)福山コンサルタント	西日本技術開発(株)
個人会員 72名	(株)富士ピー・エス	西日本コントラクト(株)

～道守通信 vol29 秋号へ協賛いただいた皆様(団体・企業)～

※順不同

道の駅 うきは	道の駅 北川はゆま	にじの耳納の里 にじ農業協同組合
(株)ヤマックス	(株)安部日鋼工業	(有)クリエイト
グリーンランド開発(株)	(株)五幸建設	(株)坂下組
(株)西部技建コンサルタント	太陽技術コンサルタント(株)	(株)ピーエス三菱 九州支店

写真：玄界灘風景街道

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

(一社)九州地域づくり協会	九州国道協会	(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 九州支部
(一社)日本道路建設業協会 九州支部	九州電力(株)	(株)西日本新聞社
(一社)福岡県建設業協会	福岡県道路協会	福岡市道路利用者会議
(一社)佐賀県建設業協会	佐賀県道路愛護協会	建設サービス(株)
(一社)長崎県建設業協会	長崎県道路協会	長幸建設(株)
(一社)熊本県建設業協会	熊本県道路利用者協会	(株)高山組
(一社)大分県建設業協会	大分県土木建築協会	鹿島建設(株) 九州支店
(一社)宮崎県建設業協会	宮崎県道路利用者協議会	清水建設(株) 九州支店
(一社)鹿児島県建設業協会	鹿児島県道路利用者協議会	大成建設(株) 九州支店
みちを考える会	社会福祉法人 宇水会 特別養護老人ホーム宇水園	
(株)サタコンサルタンツ	上内電気(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
三州技術コンサルタント(株)	川田工業(株) 九州営業所	(株)アジア技術コンサルタンツ
昭和コンクリート工業(株) 九州支店	九建設計(株)	(株)アップス
新成建設(株)	(株)九州開発エンジニアリング	(株)安部日鋼工業 九州支店
新日本技研(株) 福岡支店	九州建設コンサルタント(株)	(株)安藤・間 九州支店
(株)新日本技術コンサルタント	九州地区道路利用者会議	いであ(株) 九州支店
(株)センコー企画	九州みちの会	烏城塗装工業(株)
(株)総合技術コンサルタント 九州支店	(株)橋梁コンサルタント 福岡支社	(株)エスイー 九州支店
そうじの会(多久の未来を創る会)	(株)ケー・シー・エス 九州支社	NTTインフラネット(株) 九州支店
農事組合法人そよかぜ館(「道の駅大和」)	(株)建設環境研究所 九州支社	NTTインフラネット(株) 熊本支店
大日コンサルタント(株) 大阪支社九州事務所	(株)建設技術研究所 九州支社	NTTインフラネット(株) 鹿児島支店
大日本コンサルタント(株) 九州支社	(株)建設技術コンサルタンツ	扇精光コンサルタンツ(株)



発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」秋号
平成27年11月4日発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■（一社）九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp